

平成30年 第1回滋賀会研修会

「ビラデスト今津」

- *日 時：平成30年7月22日（日） 9：30～15：00
- *場 所：ビラデスト今津（高島市今津町深清水地先）
- *天 候：快晴
- *参加者：佐々木、梶谷、小西、高橋、水田、平田、野村、下川 計8名
- *講 師：小西
- *行 程：JR マキノ駅 9:30 集合—ビラデスト今津・であいの館スタート 10:20
みどりの広場（セラピーロード平池コース）—平池着 12:10（昼食）
平池発 13:00—はつらつ広場（セラピーロード終わり）—展望台—
であいの館着 14:30(反省会・解散 15:00)

標高約 550m に位置する「ビラデスト今津」において、今年度第1回目の滋賀会定例研修会が実施された。当日、平地での最高気温は 35℃を越す猛暑日であったが山頂での研修で下界よりも数度気温が低いことと、カラッとした涼しい風のおかげで思いの外過ごしやすく快適な現地研修となった。

当地は、毎年夏期のこの時期に行われている「緑の少年団指導者研修」の開催場所のひとつだが、湖西地方の山上にある自然環境に恵まれた「ビラデスト今津」の魅力は残念ながら未だ滋賀会全員には認識されてはいないのが現状である。

そこで今回、8/21(火)の「緑の少年団指導者研修」に先立ち、「ビラデスト今津」を舞台に現地研修を通して、当地の自然環境を幅広く知ることと我々滋賀会会員一人ひとりの資質の向上を目的として本研修が行われた。

1、ヒカゲノカズラ(常緑性シダ植物)

ヒカゲノカズラ科ヒカゲノカズラ属
夏期に茎から直立した細い茎を伸ばして、上部に 2～4 個の「胞子のう穂」をつける。黄色い胞子が煙り状に飛び散る。

生薬「石松子」



2、ヤブデマリ

レンプクソウ科ガマズミ属

果実は液果で、8～10 月頃に赤くなり、花序の枝も赤くなる。晩秋には黒色に変わる。

「二色効果」



3、ウリハダカエデ

ムクロジ科カエデ属

若木は、暗緑色に黒い縦縞が入り、菱形状の皮目が点在。枝は緑色で無毛。

大きめの翼果、2枚の翼果は斜めに開く。

4、ジュズスゲ（数珠薈）

カヤツリグサ科スゲ属

林縁、林道の湿った場所やため池畔に生える多年草。



5、コツブアメリカヤガミスゲ

カヤツリグサ科スゲ属

北アメリカ原産。牧草地などの草地に生育する。牧草種子に混入して持ち込まれたと推測される。2002年に北海道で初確認の新参者。



6、ナナカマドを食葉するキバラケンモンの幼虫

バラ科樹木の食葉性害虫のひとつ。



7、コハウチワカエデ

ムクロジ科カエデ属

ミズナラ、ブナ林に多く見られる。

「ハウチワカエデ」のような円形の葉身で、一回り小さい。

葉柄と葉身が同じくらい長いのが特徴。

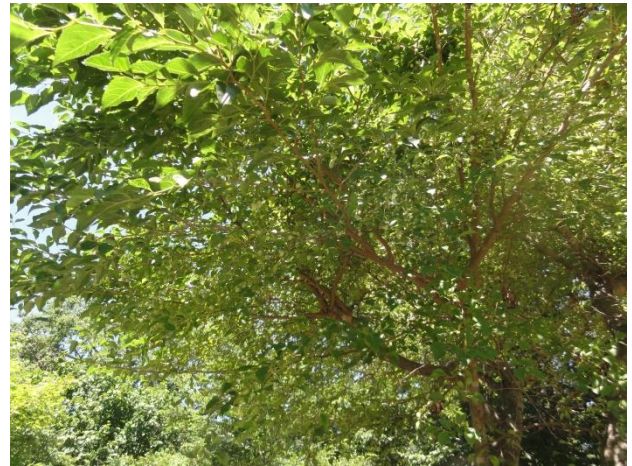


8、エゴノキ

エゴノキ科エゴノキ属

果実は有毒成分の「エゴサポニン」を含む。石鹼の代用や魚毒として利用。

果実の中の種子をヤマガラが好む。取った種子をすぐ食べるだけでなく、一旦地中に埋めてから後で食べる行動も見られる＜貯食型種子散布＞



9、ホウノキ

モクレン科モクレン属

葉も花も 20 cm以上になる

大型（日本で最大）

「びわこ水源の森たかしま セラピーロード平池コース」に入る。



10、カナクギノキ

クスノキ科クロモジ属

西日本に分布し、葉が長くて先端に近い部分で幅が最大になる。

樹皮に見られる「鹿の子模様」から、「かのこぎ」がカナクギの語源。



11、ウワミズザクラ

バラ科ウワミズザクラ属

果実は液果。熟すと甘い。

少しずつ黒色に熟す。「二色効果」

小枝は節くれだってジグザグ。



12、シカの角研跡（ハウノキ）

雄ジカの角が生えてきた初期は袋に包まれた柔らかい角（袋角）で、発情期に角が堅くなってきた頃、木にこすりつけて袋を取ると同時に角の先を研ぐ行動を取る。縄張りという説もあるようだが確かではない。

13、デンジソウ

デンジソウ科デンジソウ属（環境省絶滅危惧Ⅱ種）

シダ植物。四つ葉のクローバ状の形。

葉が田の字形に並ぶため「田字草」の名前がつく。



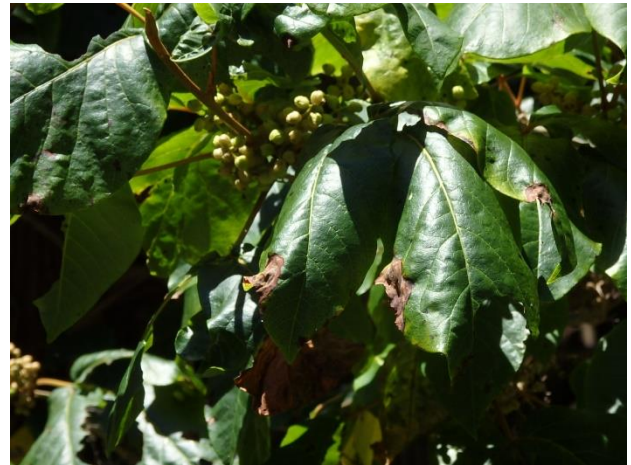
14、ツタウルシ

ウルシ科ウルシ属

ウルシ科なので、樹液にふれると

かぶれる<ウルシオール>

三出複葉のつる性木本。



15、サワフタギ

ハイノキ科ハイノキ属

実は直径 7～8 mm で、美しいコ
バルト色に熟す。

別名：ルリミノウシコロシ



16、イワヒメワラビ

コバノイシカグマ科イワヒメワラビ属

葉身は三角状長楕円形の3回羽状複葉

「シカ不嗜好性植物」



17、キタヤマブシ

キンポウゲ科トリカブト属

トリカブトの一種で全草有毒。

根茎は猛毒の「アルカロイド」を含む。

林縁等に多く、茎が斜めに伸びる。

(※イブキトリカブトは直立)

18、キハダ

ミカン科キハダ属

山地で湿り気のある林内に生える。

葉は「奇数羽状複葉」で対生、小葉2～6対。

キハダの黄色い内皮からは苦味健胃薬「陀羅尼助」を作る。

成分は「ベルベリン」



19、オオモミジ

ムクロジ科カエデ属

ヤマモミジの母種で、葉の鋸歯が単鋸歯様で揃っている。葉は対生し、帯状に 7～9 裂する。



「カキツバタ」の花の時期が終わった、7月下旬の「平池」の様子



20、タンカイザリガニ

北海道で特定外来生物に指定されたウチダザリガニと同種。

淡海湖の「固有種」で「特定外来生物」（2006 年 2 月に追加指定）

「保護される対象でもあり、駆除の対象でもある存在」という特殊な位置づけ。



21、ミズオトギリ

オトギリソウ科ミズオトギリ属

池、沼、湿原に生える。

花は午後に開き、夕方には閉じる「一日花」

葉には、白っぽい「明点」が多く見られる。他のオトギリソウの仲間と違い、花の色は赤い。



22、ハウチワカエデ

ムクロジ科カエデ属

葉柄は短く、葉身の2分の1以下。

葉柄は有毛で、葉は対生して径は7～12 cmと大型。葉は掌状に9～11裂する。



23、ツノハシバミ

カバノキ科ハシバミ属

林縁等で株立ちし、枝を横へ長く伸ばす傾向あり。花序は1～4個が集合し、総苞がくちばし状に伸びる。

総苞の中に1つの堅果が入る。

「和風ヘーゼルナッツ」



24、サンカクヅル

ブドウ科ブドウ属

葉は長さ4～10 cmで、三角形。

液果の直径は7 mmくらいで、食べられる。

別名は「ギョウジャノミズ」



25、ミズメ

カバノキ科カバノキ属

樹皮や材観がサクラに似ることから「ミズメザウラ」とも呼ばれる。

枝を折ると「サロメチール」＜サリチル酸メチル＞の臭いがする。

別名：「アズサ」、「ヨグソミネバリ」



参加者の集合写真

展望台からびわ湖を望む



その他、観察できた植物

ヌルデ、オオバクロモジ、ネジバナ、ヒメヤシヤブシ、マムシグサの一種、クマシデ、ブナ、イソノキ、コシアブラ、トウダイグサ、ヤマボウシ、オオカメノキ、ヤマウルシ、ミズナラ、リョウブ、マルバマンサク

今回の研修は、8/21(火)に実施予定の「緑の少年団指導者研修会」の下見を兼ねている。今年の研修テーマは、「森の危険生物について」であり、最初に準備した研修資料をもとに説明後、実際にフィールドを歩きながらヤマウルシ、ヌルデ、キタヤマブシ等の危険植物はもとより、ドクガやハチ類等の昆虫にも焦点をあてて解説しなければならない。参加者にわかりやすく、今後の各団での指導に活かしてもらえる研修とするため、今回の滋賀会定例研修会はその一助になったのではないかと考える。

なお、今回の報告で使用した写真の多くは、水田、平田会員から提供いただいた。紙面を借りてお礼申し上げます。

(文責 下川茂)